

研究課題名	経大腿動脈アプローチ経カテーテル的大動脈弁植え込み術における創部切開穿刺法と経皮穿刺法との比較検討
用語の説明	※創部切開穿刺法：鼠径部を切開して大腿動脈を外科的に露出して穿刺する方法 経皮穿刺法：皮膚の上から大腿動脈を穿刺する方法
研究の意義・目的	経カテーテル的大動脈弁置換術のカテーテルを挿入する大腿動脈に対して、外科的に血管を露出する方法と皮膚の上から動脈を穿刺する方法があります。直接血管を露出する方法は血管損傷した場合などの緊急時の対応が皮膚の上から穿刺する方法よりも迅速に行えますが、創部感染やリンパ漏などの創部合併症が出現し、手術時間や術後の安静時間が長くなると言われています。反対に皮膚の上から穿刺する方法は、手術時間や安静時間が短くなり、創部合併症はなくなりますが、仮性動脈瘤などの血管関連の合併症が出現し、術中血管損傷などの緊急時に対応が遅くなると言われています。両者とも長所と短所があり、この研究結果は、創部切開穿刺法と経皮穿刺法の合併症の頻度や種類を評価し、今後の手術成績の向上に貢献することを目的とします。
研究を行う期間	研究実施許可日～2023年3月
研究協力をお願いしたい方(対象者)	2016年1月1日から2021年3月31日に大阪公立大学医学部附属病院の心臓血管外科もしくは循環器内科で、大動脈弁狭窄症に対して経カテーテル大動脈弁留置術の治療のため入院された方が対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 診療情報等：【病歴、既往歴、手術歴、年齢、性別、体重、入院日、入院期間、血液検査データ、ABI検査データ、CT画像】
試料・情報の他機関への提供	この研究は大阪公立大学医学部附属病院心臓血管外科のみで行い、他の施設に試料・情報は提供いたしません。
この研究を行っている共同研究機関	この研究は大阪公立大学医学部附属病院心臓血管外科のみで行います。
試料・情報を管理する責任者	大阪公立大学大学院医学研究科 心臓血管外科学 研究責任者 柴田 利彦
本研究の利益相反	利益相反の状況については大阪公立大学利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力したくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	大阪公立大学大学院医学研究科 心臓血管外科学 (担当者氏名) 住井 陽介 電話番号：(06) 6645-3980 メールアドレス：z21033j@omu.ac.jp